

土づくり

よい土とは

- 1 排水がよい（通気性がよい）
- 2 保水性がよい
- 3 土壌酸度が適当である
- 4 病害虫に侵されていない

よい土づくり

有機物を加える

堆肥や腐葉土などの有機物を加えると、土壌構造をよくし、排水、保水性のよい土になります。また、土壌微生物がふえ、有機物を分解し肥料成分を供給します。

土壌改良剤を加える

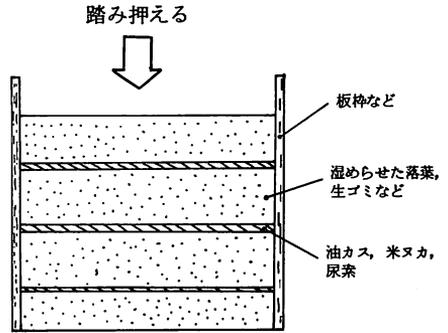
人工的に作られたパーライト、パーミキュライトなどを混ぜると排水や保水性がよくなります。

土壌酸度の調整

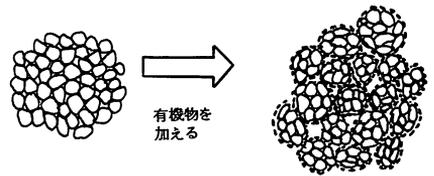
植える植物に応じて、石灰や酸性用土（鹿沼土、ピートモス）などを加え、酸度を調節してやります。

園芸用土の種類と使い方

- 鹿沼土** 強酸性で、みじんを除いたものは保水、通気性がよい。ツツジ類の用土やさし木用土に適している。
- 赤玉土** 弱酸性。排水性、保水性よく、保肥力も高い。鉢用土によい。
- ピートモス** 強酸性。保水、排水性よく、保肥力もよい。土に2～3割混ぜる。
- パーライト** 排水、通気がよく、用土に混ぜると土が固まるのを防げる。さし木用土としても良好。
- パーミキュライト** 保水、排水性がよく、保肥力も高い。鉢、さし木用土に適している。
- 腐葉土** 排水性、保水性よく、用土に混ぜて使用する。土壌の構造がよくなる。
- 砂類** 排水性を増すために用土に混ぜる。さし木用土によい。



堆肥の作り方



悪い土
排水、通気、保水性が悪い。肥料は含まれない

よい土
排水、通気、保水性がよい。有機物は分解されて土の状態をよくする

よい土づくり

鉢土の配合例 総量を10とする

一般草花類	庭土（赤玉土）5～6、腐葉土4～3、川砂1
観葉植物類	庭土（赤玉土）7～8、腐葉土3～2、あるいは水苔のみ
サボテン類	川砂8、腐葉土1、貝ガラ1
盆栽類	山砂（真砂）10、あるいは赤玉土10
サツキ、ジャクナゲ	鹿沼土10、あるいは日向土8、ピートモス2
洋ラン	水苔10、シンビジウムなどは軽石8、ピートモス2

注) いずれも病害虫のない清潔な土を用いること



静岡市植物公園